

AMDA 四国支援へ連携会議

南海トラフ地震想定

国際医療ボランティア
アAMDA（岡山市北区伊福町）は20日、南海トラフ巨大地震発生時に甚大な被害が見込まれる四国支援の在り方を考える第7回連携会議を岡山市内で開いた。新型コロナウイルス禍の影響で2019年以来の開催で、現在の取り組み状況や今後の方針を確認した。

AMDAと災害時の協定を結ぶ岡山、香川、徳島、高知県内の自治体や医療機関などから約140人が参加。冒頭、AMDAの佐藤拓史理事長が「さまざまな分野の皆さんが協力することで被災地の大きな力になる。連携を一層深めよう」と呼び

かけた。

AMDA担当者はボランティア登録制度を活用し、本年度から人や物資を運ぶドレイバーのほか、被災状

況の写真記録を担う人ら医療従事者以外も派遣できるよう調整を進めていると報告。四国で行われる住民の防災勉強会などに職員が参加し、平時から顔の見える関係づくりを行う考えも示した。

（中村啄也）

南海トラフ巨大地震発生時の四国支援の在り方を考えた会議

